

半年前、放課後補習の理由で学園中ほとんどの男子生徒を呼び集めます、私のいやらしい体を満足する為だけにあんな事やこんな事も色々いやらしい事をやります。

今日も楽しい一日が始まる。当然、私だけじゃなく、参加する生徒達のでかチンポも私の淫乱な体を侵犯するためにピンピンしている。

ほっら、私の淫乱マンコもうこんなにグチヨグチヨになってるよー

ああ・・・この汗とチンポの臭い、もうオマンコの疼きがおさまらない



これ！これよ！この極太チンポが欲しかったの！  
こんな濃厚な匂い、まるでけだものみたい！



もっと！もっと大きくなって！  
私の淫乱オマンコをプチ込んで！

ああん♡入れだ♡なんでこんなに大きいの♡  
こうなら私おかしくなっちゃっよ♡



もっと奥まで入れてえ♡  
もっと激しく擦られてえ♡♡♡

はひひひひひ〜♡二つの穴に両方肉棒が突っ込まれてる〜♡♡

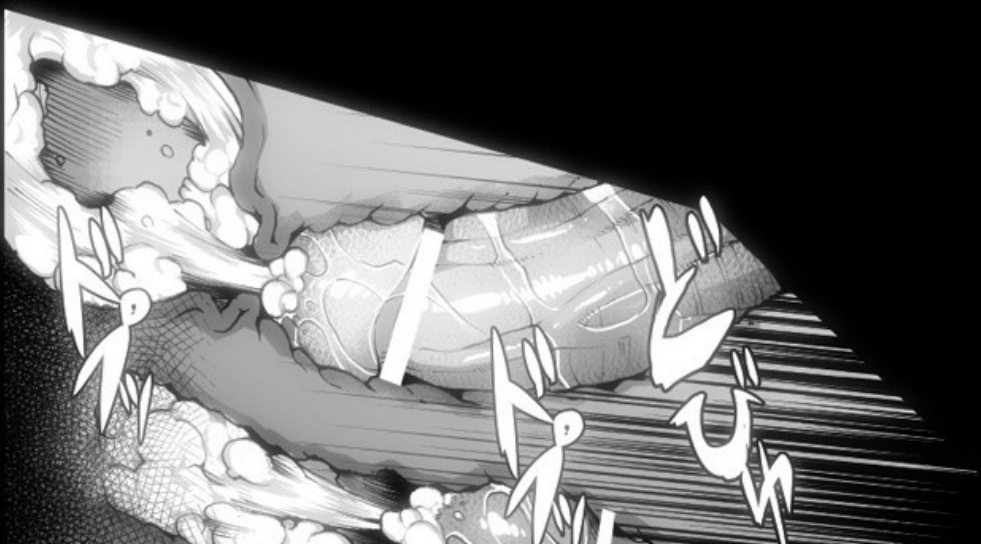
私の弱い所は皆もう知っている、  
息抜きの時間もない、敏感な場所を責め続けた。



私のいやらしいおっぱいも見逃されなくて蹂躪された。

もう完全に性処理用肉便器になっちゃった。

チンポの臭いが脳味噌を刺激して、  
頭がぼわーっとして何も考えられなくなっちゃうっ



その後何時間経ったてるが、  
もう全然わからない

分かるのは濃くて臭いザーメンで  
私の子宮がパンパンになっただけ…



だって私のアへ顔はいつも皆の大好物なんですから〜♥

シャッターの音を聞いたら身体が勝手に勝手に反応した！

